
ごめんなさいとつたえたい

落ちぶれた天使

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ごめんなさいとつたえたい

【Nコード】

N5325Z

【作者名】

落ちぶれた天使

【あらすじ】

ああああああああああああああああああああああ

前編

今日は日曜日。

コナンと蘭はデパートに買い物にきていた。

ここは洋服売り場。

蘭が楽しそうに服をみているそばでコナンは棒立ちしている。

そのときだった。

拳銃をもった男がコナンのそばにやってきた。

コナンはあきらかに混乱していた。

いきなり男がコナンにむけて八方してきた。

蘭が

コナンの前にとびだしてコナンを守ろうとした。

弾は蘭の太ももにふかくくいこんだ。

おぞましいほどに血がでてきている。

コナンは蘭にかけよった。

野次馬がやってきて男はにげていった。

蘭はそのまま病院に搬送された。

蘭にあたったたまは貫通していなくて、すぐに手術がおこなわれた。

コナンは手術室の前でただ呆然とたっていた。

「俺のせいで蘭はうたれたんだ・・・」

小五郎やえり、警部たちがきてもコナンはそのままだった。

めぐれ「犯人は新聞でコナン君のことをしり、キッドファンだろう。」

そのとき手術中のランプがきえて蘭と医者が出てきた。

医者「傷が思った以上ふかくてしばらく歩けないでしょう。次の手術まで半年、リハビリに1年はかかります。それまで運動はできないでしょう。」

小五郎「じゃあ蘭は高校で空手をもうできないのかよ!？」

えり「うそでしょう・・・!？」

コナン『空手が高校でもうできない?』

コナンはそのままたおれてしまった。

顔は真っ青でショックのせいかうまく呼吸ができていなかった。

コナンはすぐ酸素マスクをつけられ蘭とおなじ病室にねかされた。

目がさめるとなっている蘭とそれをなだめているえりや小五郎、園子が目に入った。

蘭の目からはあふれんばかりの涙がでている。

コナンはまたすぐ胸がおしつけられるようになってくるしくなった。

イキガデキナイ・・・

俺の名前をよぶみんなの声がきこえる・・・

蘭以外の。

俺はそのまま気をうしなった。

目がさめたら病室ではなく家の寝室だった。

そばにはおっちゃんがたっている。

おっちゃんは俺をリビングにつれていってくれて夕食をだしてくれた。

なぜか俺は食べ物をみると吐き気がして蘭の泣いている声が頭によぎった。

おっちゃんが少しでもたべろといったのでしかたなく一口口にいった。

だがすぐとてつもなく気持ち悪くなって戻ってしまった。

おっちゃんがやさしく背中をさすってくれたがもう食べるきがなくな、そのままねてしまった。

～次の日～

また吐き気がする。

ベットには誰もいなくてかわりにきさき先生がはいつてきた。

蘭が一時てきに退院したらしく、優しい顔で朝食をだしてくれた。

机には小五郎、真つ赤に目をはらした蘭、えり、そしてコナンがいる。

まだ食べる木にはなれなかった。

やっぱり目のまえに食べ物があると吐き気がした。

あわてて口をおさえる。

顔は真つ青になった。

えり「だ、大丈夫！？コナンくん！！」

小五郎「昨日もたべなかつたよな！一回、あらいで先生にきてもらうか。電話してくる。」

コナンはえりにつれられて布団にはいった。

しばらくするとあらいでと小五郎が「はいってくる。

あらいでにいろいろ検査された。

あらいで「とくに体に異常はないとおもうんですが。たぶんショックのせいで食べ物がいやになってしまったんでしょう。今はどうすることもできないんです。一回おおい病院にいったほうがいいですね。」

えり「大丈夫？コナン君。」

コナン「ごめ、んなさ、い・・・」

声がとぎれていく。

体がいようにおもい。

あらいでとえりと小五郎が言えをでていった。

隣からは蘭のすすりなく声がきこえてくる。

そのたびにコナンは胸がしめつけられた。

く5日後く

お見舞いに少年探偵団とはかせと哀がやってきた。

コナンは一切たべておらずねてもいならず栄養点滴でかるづじていていた。

かなりやせて顔色もいつこうにわるかった。

まだ蘭はずっとないている。

一回もコナンとは口をきいていない。

哀「貴方、なんでそんなにやせてるの!？」

歩美「ちゃんと食べてる!？」

博士「顔色わるいぞ!？大丈夫か!？」

そこにえりがあらわれてコナンのこと、蘭のことを説明した。

みんな深刻な顔をしてきいていた。

蘭もやつのことで部屋をでてきたが、目のしたは赤くはれていた。

探偵団にいわれて蘭はコナンの様子をみにいくことにした。

蘭はコナンをみると絶句した。

コナンはただうつすら目をあけているだけでなににもみえておない。

蘭はその場になきくずれた。

ごめんねとさけびつづけていた。

蘭と小五郎とえりと探偵団と博士は食事にいくことになりコナンは

ひとりねていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5325z/>

ごめんなさいとつたえたい

2011年12月17日23時49分発行